

これまでの取組み成果と今後の対応

I 未来を拓く人づくり ～子どもの教育～

基本的な方針1 「確かな学力」の向上と「生きる力」の育み

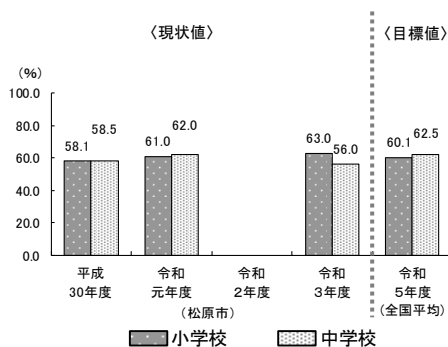
重点目標(1) 学力向上の取組みの推進

【主な取組み】

主な取組み	内容
「学力向上アクションプラン」の策定と検証・改善	(教職員研修事業) 小学校3年生～中学校3年生の全児童・生徒を対象に学力向上の取組みに対して、アンケートを実施し、児童・生徒の実態を把握する。結果を教職員の資質向上と児童・生徒の学力向上に活用する。
情報活用能力の育成とICTを活用したわかる授業づくり	(情報教育推進事業) 「ICT機器を活用した授業づくり」「情報モラル」「プログラミング教育」をテーマに、ICT機器や『SNSノートおおさか』を活用した授業事例の収集をICT活用推進会議と連携して実施する。また、教職員対象のポータルサイトを開設し、その成果を全教職員と共有する。
	(情報教育推進事業) 各学校において、感染症予防対策をとりながら、情報モラル教育やICT機器を活用した授業づくりを進めるため、校内外での研修を実施する。
放課後学習など、自学自習力の育成と家庭学習習慣の定着を図る取組みの推進	(放課後学習等サポート事業) 各学校において「基礎基本の定着」「自学自習力の育成」と「家庭学習習慣の確立」をめざし、放課後等における学習指導の推進を支援するため、AIドリルの活用と、学習支援アドバイザーの各学校への派遣を実施する。
「本好きな子どもを育てる」読書環境整備・読書活動の推進	(総合的教育力推進事業) 各校の図書館に司書的な人材の配置、読書に親しむ機会を増やす等、図書教育の充実を図る。

【データの推移等】

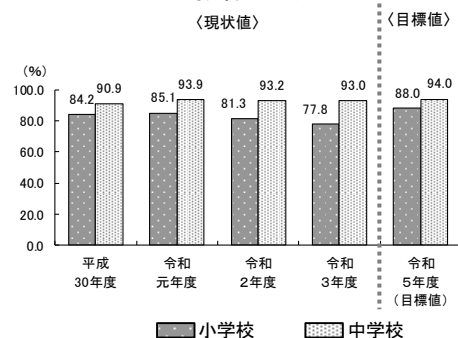
図1 全国学力・学習状況調査における平均正答率(指標A-1)



※目標値は令和3年度暫定値

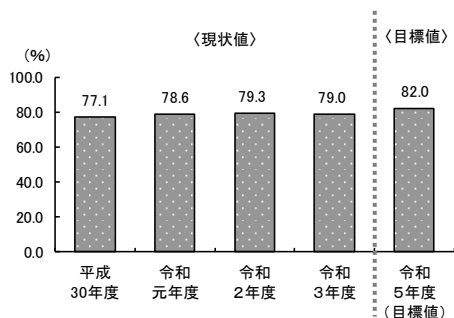
出典：全国学力・学習状況調査結果概要

図2 授業において自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童・生徒の割合(指標A-2)



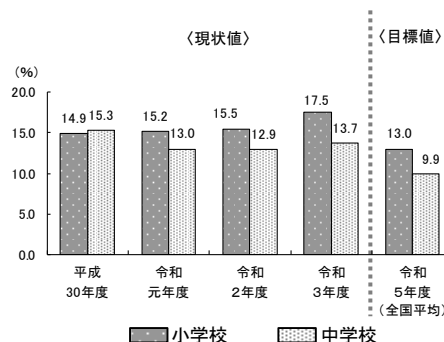
出典：学力向上アクションプラン

図3 読書が好きな児童・生徒の割合
(指標 A-3)



出典：学力向上アクションプラン

図4 学校の授業以外で普段（月～金曜日）、1日の勉強時間が30分以下の児童・生徒の割合
(指標 A-4)



※目標値は令和3年度暫定値

出典：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査

◎感染症予防対策のために発表したり交流したりする活動を抑制した結果、自分の考えを発表する機会が低下傾向にあります。また、特に小学生においては、家庭での学習の維持に難しさが見られることから、学校の授業以外での勉強時間に課題が表れています。しかしながら、コロナ禍による困難な状況下にも関わらず、全国学力・学習状況調査の平均正答率は、大阪府と同じ程度（小学校66.0%、中学校56.0% 令和3年度実績）の推移を維持していることから、学校での授業における工夫が進んでいます。

【取組みの成果】

各校の課題に合わせ、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、乳幼児とのふれあいや、情報モラルについての学び、総合学習のゲストティーチャー等、計画的に地域・保護者との連携を深めながら教育活動を推進することができました。また、ICT機器や学習支援ソフトを活用するための研修を各校で企画・実施したほか、各校の実態に合わせて、個に応じた指導の充実と改善を推進することができました。

【今後の対応案】

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限がある中で学校・地域・保護者が連携を深めていけるよう、好事例の収集・発信に取り組んでいきます。

また、「学力向上アクションプラン」の策定や、学力向上のための取組み、ICTを活用した授業づくりを継続し、教育・研究活動の質の向上と子どもの資質・能力の向上に努めます。

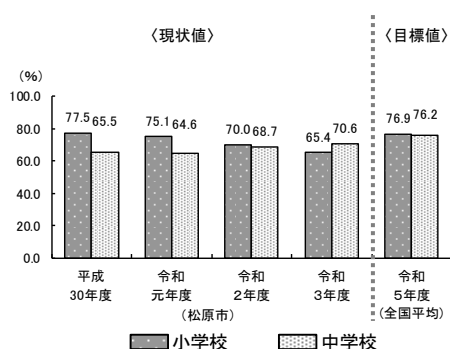
重点目標（２）豊かでたくましい人間性の育み

【主な取組み】

主な取組み	内容
生徒指導の充実・強化	(児童・生徒理解活動（心の教育）推進事業) (児童・生徒ハートサポート推進事業) ・児童、生徒理解を推進するため、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の配置による保護者支援・教育相談活動や、体験活動等を実施する。 ・教育相談員による巡回活動などを通して児童・生徒が安心して登下校できる環境の整備を行う。
キャリア教育の充実	・幼児期の教育から高等学校教育への連続性も視野に入れ、小学校段階から児童・生徒の発達段階に応じたキャリア教育を系統的・継続的に行うように努める。 ・校内進路指導体制を整備し、児童・生徒が将来に対する目的意識を持ち、自らの責任で進路を選択決定する能力を身に付けることができるように指導を行う。高等学校等への進学指導にあたっては、合同進路説明会の開催や、各校での進路説明会など保護者への情報提供を行う。
就学前教育の充実	(児童・生徒理解活動（心の教育）推進事業) 四つ葉幼稚園にキンダーカウンセラーを配置し、教育相談活動を実施する。

【データの推移等】

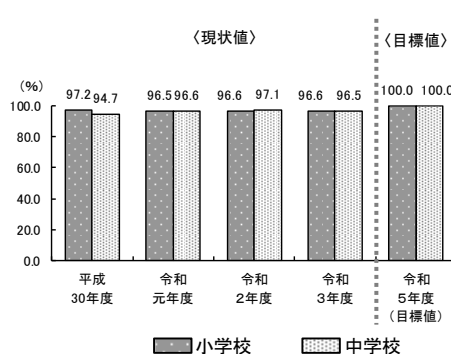
図5 自分には、よいところがあると思う児童・生徒の割合（指標 B-1）



※目標値は令和3年度暫定値

出典：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査

図6 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童・生徒の割合（指標 B-3）



出典：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙

◎いずれの項目においても、全国と同様の傾向が見られ、取組みの成果が見られています。特に、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いう児童・生徒の割合においては、高い水準を維持しています。しかし、自分には、よいところがあると思いう児童・生徒の割合の小学校においては、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響（学校内外での活動制限など）からか、低下する傾向が続いており、引き続き、ひとりひとりの子どもたちの居場所を大切にした生徒指導と子どもたちが自分自身の生き方を見つめ考えるキャリア教育の取組みを進めていく必要があります。

【取組みの成果】

生徒指導の充実・強化では、チームで行う支援の充実に向けて、関係諸機関との連携のもと、ケース会議等の実施、総合的なネットワークを構築し、開かれた生徒指導体制づくりに取り組むことができました。また、ケースに応じて教育相談員が学校のサポートに回りアドバイスを行うことで、学校の指導に専門性や多角的な視点を加えることができました。

キャリア教育の充実では、教育活動全体を通じて、キャリア教育の視点で学校教育活動を充実させることができました。特に児童・生徒が自己肯定感や自己有用感をもって、自らの生き方についての夢や希望を育むことができる取組みを推進することができました。

就学前教育の充実では、キンダーカウンセラーを配置し、園児だけでなく、子育てや指導方法に悩みや不安を抱える保護者や教職員への相談活動を継続して行うことができ、様々な子ども及び保護者たちの心のケアを行うことができました。

【今後の対応案】

学校のニーズに合った人員の派遣をスムーズに効率的に行うため、連絡、相談がしやすい組織体制づくりを強化するなど、今後も取組みを継続していきます。

また、スクールソーシャルワーカー育成のため、今後も取組みを継続していきます。コロナ禍において、キャリア教育の中心的な取組みの一つであった職場体験の開催が難しくなっています。そのため、職場体験に代わる体験活動を模索するなど、必要に応じて、今後は取組みを見直していきます。

さらに、キンダーカウンセラーによる教育相談についてはニーズ、成果ともに高く、より相談しやすい環境整備のために、今後も取組みを継続します。

基本的な方針 2 安心・安全な学校園づくりの推進

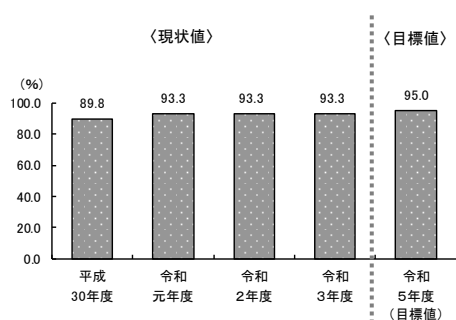
重点目標（1）安心・安全な学校園づくりの推進

【主な取組み】

主な取組み	内容
学校における教育環境などの調査研究と整備	（学校ICT機器等整備事業） 国のGIGAスクール構想に対応できるよう、タブレット等を整備する。
各小中学校のトイレ、空調設備等の整備	（各小中学校空調機設置事業） 故障した場合、部品交換のできない職員室及び校長室の空調機を更新する。
	（各小中学校トイレ改造事業） 洋式化率の低い小学校のトイレを改修し、教育環境を改善する。
	（各中学校トイレ改造事業） 洋式化率の低い中学校のトイレを改修し、教育環境を改善する。
セーフスクールの推進	（セーフスクール推進事業） （体及び心の）けが及びその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全で健やかな学校づくりを進める。
各幼稚園施設の更新	（公立幼保連携型認定こども園建設事業） 「子ども・子育て支援新制度」の趣旨を踏まえ、幼保の一体化により、幼稚園と保育園の機能を兼ね備え、かつ子育て支援にも力を注ぐ「幼保連携型認定こども園」を基本モデルとして整備を行っていく。
管理員配置や防犯カメラ設置などによる安全管理の充実	（市立小学校セーフティスクールサポート事業） 入校者の受付対応をするために小学校の校門に管理員を配備することで、児童のいる時間帯の不審者の侵入を未然に防止する。

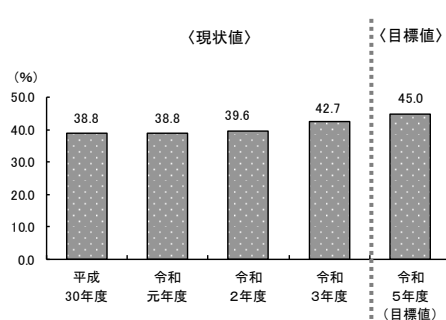
【データの推移等】

図7 トイレ整備率（指標 C-1）



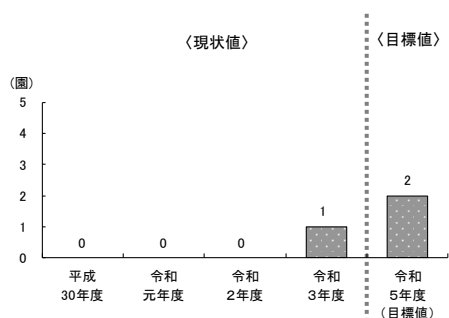
出典：教育総務課

図8 トイレ洋式化率（指標 C-2）



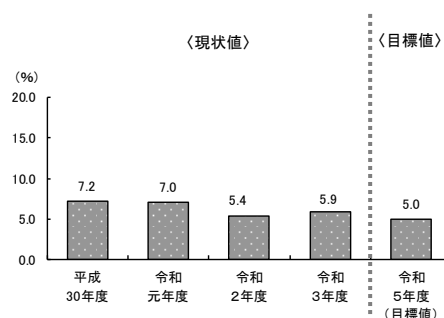
出典：教育総務課

図9 公立認定こども園の開設数
(指標 C-3)



出典：子ども未来室

図10 学校における受傷率(指標 C-5)



出典：教育推進課

- ◎恵我小学校及び松原中学校のトイレ改修工事が完了したことで、トイレの洋式化率が上昇しました。
- ◎衛生管理等を徹底した結果、給食を停止することなく、松原市内の小・中学校の児童・生徒に、安心・安全な学校給食を提供できました。

【取組みの成果】

学校ICT機器等整備では、令和2年中に配備を完了した端末について、授業等で有効に活用できるよう整備しました。

また、各小学校空調機の設置については、故障し、部品交換のできない天美南小学校及び天美西小学校の職員室及び校長室の空調機を更新しました。

各小中学校のトイレについては、洋式化率の低い恵我小学校及び松原中学校のトイレを改修することで、洋式化率がそれぞれ23.5%から45.9%に、14.1%から43.6%に、全体では、39.6%から42.7%にそれぞれ改善しました。

セーフスクールの推進については、松原中学校区、松原第二中学校区、松原第三中学校区、松原第五中学校区、松原第六中学校区において新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底しながらISS（国際セーフスクール）の現地審査を行いました。学校・保護者・地域・行政が連携し、安心、安全な学校・校区づくりに協働で取り組んだことが評価され、日本初の全校認証を取得することができ、合同認証式を実施することができました。

公立幼保連携型認定こども園建設については、令和3年4月1日より松原市立幼保連携型認定こども園わかばこども園が開園しました。また、新たな幼保連携型認定こども園建設のため、用地確保の取組みを始めました。

市立小学校セフティスクールサポート事業については、平成16年より校門に管理員を配備し、受付対応することで不審者の侵入を未然に防止するよう対策し、安全な学習環境を確保できています。

【今後の対応案】

児童・生徒がG I G A端末を最大限に活用できるよう、インターネット環境等を整備していきます。

また、各小中学校のトイレの洋式化は、引き続き、整備を進めていきます。

さらに、空調設備については、令和2年度に普通教室の設置率が100%となったものの、校長室や職員室、ランチルームや総合学習室などに設置した空調機についてかなりの年数が経過し、故障の際、部品の交換ができない恐れがあり、引き続き入替えを進めていきます。

セーフスクール推進については、令和3年度に市内全校認証を取得した成果をいかし、全校において今後も継続して安心・安全な学校づくりを進めていきます。

公立幼保連携型認定こども園建設事業については、令和7年度に新たな幼保連携型認定こども園を建設します。

市立小学校セフティスクールサポートについては、児童の安全な学習環境を確保する為、今後も継続して学校への不審者侵入の未然防止に努めます。

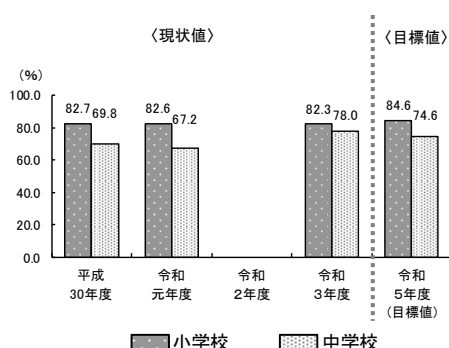
重点目標（２） 学校園運営体制の充実と教職員の資質向上

【主な取組み】

主な取組み	内容
経験年数の少ない教職員を対象にした育成の強化	(教職員研修事業) 児童・生徒の生きる力を育むために、教職員の資質向上を図るための効果的な研修を実施する。
多様な研修への積極的な参加と全ての教職員の資質向上	

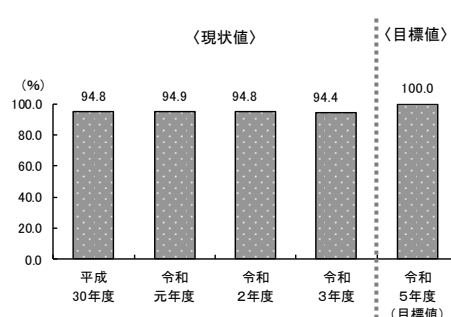
【データの推移等】

図 11 授業の内容がわかる児童・生徒の割合（指標 D-1）



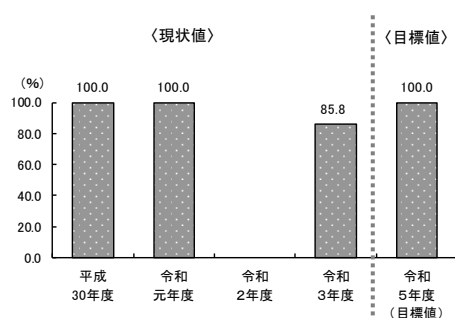
出典：全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査

図 12 市主催研修が充実していたと考える参加者の割合（指標 D-2）



出典：研修毎のアンケート

図 13 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合（指標 D-3）



出典：全国学力・学習状況調査学校質問紙調査

◎授業の内容がわかる児童・生徒の割合については、特に中学校において、授業改善の効果が見られています。また、市主催研修が充実していたと考える参加者の割合については、新型コロナウイルス感染症予防対策のためにオンラインなどの研修形態を導入し、高い割合を維持することができました。

一方で、学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合については、コロナ禍で学校を取り巻く課題が多様化し、学校が、組織的な対応に課題を感じる場面が多くなっているため、管理職を中心とした効率のよい情報共有のあり方や、スクールソーシャルワーカー等の支援人材を効果的に活用することが必要である。

【取組みの成果】

教職員研修については、様々なキャリアステージに合わせた市独自の研修を実施することができ、それによって教職員の資質・指導力の向上を図ることができました。

【今後の対応案】

教職員研修については、様々なキャリアステージに応じた教職員の資質・指導力の向上を図るため、今後も取組みを継続していきます。

基本的な方針3 子どもたちを健全に育てる地域コミュニティの形成

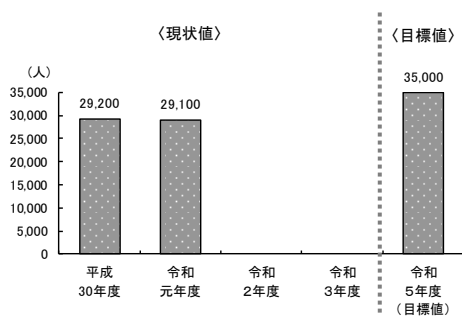
重点目標（1）地域の総合的な教育力の向上を目指した事業の推進

【主な取組み】

主な取組み	内容
いきいき事業の推進	(地域・家庭の教育力向上事業) 地域教育協議会を核とした、各中学校区フェスタをはじめとする地域の教育力向上のためのさまざまな活動を支援し教育コミュニティづくりの推進を図る。
「子ども110番の家」運動の推進	(児童自己防衛力育成事業) 市内全域で統一したプレートを使用し、数多く掲示することで、万一、子どもたちがトラブルに巻き込まれそうになった場合に安心して家庭や事業所に駆け込むことができる場所を提供し、安全を確保できるようにするとともに犯罪の防止効果を目的とする。

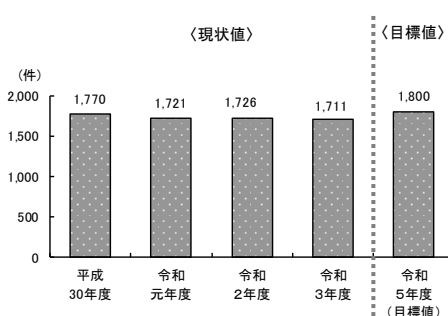
【データの推移等】

図14 中学校区フェスタ参加人数
(指標 E-1)



出典：地域教育課

図15 子ども110番の家に係る登録件数
(指標 E-2)



出典：地域教育課

◎令和2年度、令和3年度、中学校区フェスタは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、中止となりました。

◎子ども110番の家に係る登録件数はおおむね維持することができました。

【取組みの成果】

地域・家庭の教育力向上については、子どもを育む教育コミュニティづくりを推進するため、学校・家庭・地域の三者協働による地域教育協議会において様々な取組みを行いました。令和3年度はコロナウイルス感染症拡大防止のために活動の縮小を余儀なくされましたが、クリーンキャンペーンやコミュニティスクールの研修会等を行うことができました。

児童自己防衛力育成については、地域の協力と理解を得ながら、子どもたちの安全確保を行うことができました。

【今後の対応案】

地域・家庭の教育力向上については、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のため実施できなかったことを受け、感染症対策をしたうえでの中学校フェスタ等の開催方法を検討していきます。

児童自己防衛力育成については、子どもの通学路の「安心・安全」の観点から一定数の件数を確保する必要があることから、協力家庭や事業者を増やすことで、下校時に必ず開いている件数を増やしていきます。

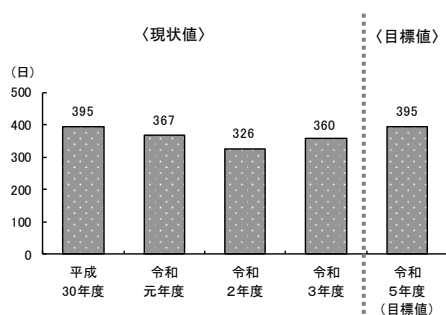
重点目標（２）青少年の健全育成の推進

【主な取組み】

主な取組み	内容
青少年指導員の活動支援	(青少年育成関連事業) 青少年の健全育成を図るため指導者として委嘱されている青少年指導員の活動を支援する。

【データの推移等】

図 16 青少年指導員の年間活動日数
(指標 F-1)



出典：地域教育課

◎青少年指導員の年間活動日数については、コロナ禍においても工夫して活動ができました。

【取組みの成果】

青少年育成については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、キャンプやスポーツ大会等が中止となりましたが、消毒ボランティアや広報活動等コロナ禍でもできる活動を工夫することができました。

【今後の対応案】

青少年の健全育成を図るため、様々な状況下でも工夫して活動ができるよう、取組みを継続していきます。

Ⅱ 自立心を育む人づくり ～社会教育～

基本的な方針 1 協働によるまちづくりを推進

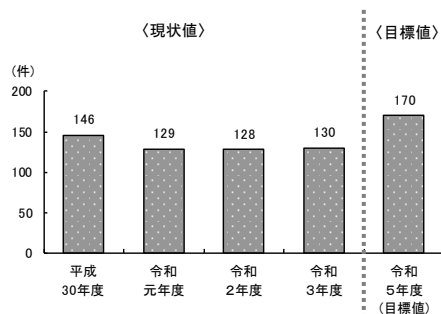
重点目標（1）市民協働のしくみづくり

【主な取組み】

主な取組み	内容
松原市生涯学習地域サポーター（通称：まっcom）の活用	（生涯学習事業） 様々な知識や技術、特技、豊かな経験を有する市民の中で、ボランティアとして活動できる人を募集・登録し、公民館・地域・学校・各種サークル等の学習活動や体験活動の指導者・支援者として活動できるように支援する。
地域の協力団体との連携の推進	（児童・生徒理解活動（心の教育）推進事業） 地元警察など関係機関と連携し、危険個所における安全対策、保護者や「子ども安全見守り隊」など学校支援ボランティア、青色防犯パトロール、地域関係団体などの協力を得て、登下校時などにおける児童の見守り活動を行う。

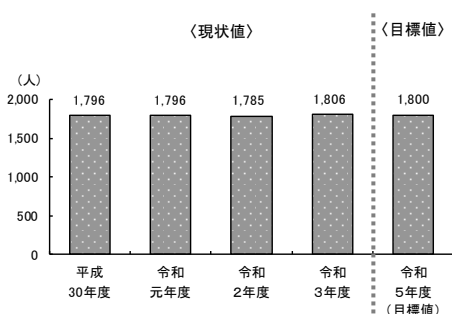
【データの推移等】

図 17 松原市生涯学習地域サポーター（“まっcom”）の登録件数（指標 G-1）



出典：公民館活動報告書

図 18 子どもの安全見守り隊登録人数（指標 G-2）



出典：地域教育課

◎コロナ禍においてボランティア活動を円滑に進めていくためにスマホのLINE活用講座を開催し、登録者のスキルアップを行いました。

◎子ども見守り隊の登録人数は、おおむね維持することができました。

【取組みの成果】

生涯学習については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民や他の部署からの派遣依頼が大幅に減少しました。市のHPに松原市生涯学習地域サポーター登録者一覧を掲載し、活動を行いました。

児童・生徒理解活動（心の教育）の推進については、地域の方々に「子ども安全見守り隊」として、子どもたちの登下校の見守りを実施していただいています。登録人数は1,785名、概ね前年度数値を維持できました。また、通学路については、毎年学校管理者、PTA、松原警察、道路管理者、教育委員会で合同点検を行っています。加えて、生徒指導アドバイザー（警察OB）による青色防犯パトロールカーやバイクによる巡回を行い、子どもたちの安全確保に努めています。

【今後の対応案】

生涯学習については、コロナ禍のため市民からの派遣依頼が少ない現状でしたが、今後も感染対策を実施し、サポーターの育成に努めます。

児童・生徒理解活動（心の教育）の推進については、地域の方々による「子ども安全見守り隊」について、高齢化による隊員の減少と成り手の不足が考えられますが、今後においても、継続して子どもたちの安全確保に努めていきます。

通学路の安全については、ハード対策はもとより、運転マナーの問題が課題となっています。

基本的な方針 2 生涯を通じた学びやスポーツを支援する環境づくり

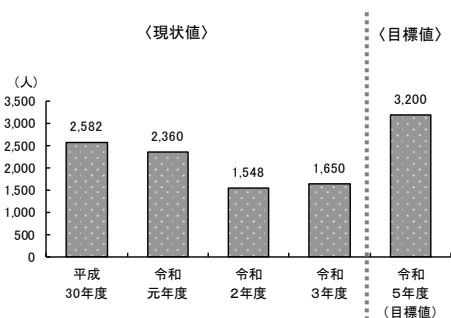
重点目標（1）生涯学習の充実と「智の拠点」づくり

【主な取組み】

主な取組み	内容
地域の仲間づくり	(生涯学習事業) 公民館を通じてさまざまな世代が集い、学び合うことで、世代間の交流や仲間づくりの機会を提供する。また講座受講後、公民館講座のボランティアとして活動できる機会を作り、地域活動への参加のきっかけづくりを図る。
新図書館（読書の森）開館による読書環境の充実	(市民図書館管理運営事業) 令和2年1月に新図書館が開館。閲覧スペースや児童書フロア、自習室の設置など充実した読書環境の整備を行う。また、Wi-FiなどIT環境を確保する。
市民図書館における乳幼児向けサービスの充実	(市民図書館管理運営事業) ボランティア団体と協力しながら、あかちゃんからのおはなし会やえほんのゆりかごなど乳幼児向けのおはなし会を行う。
文化・芸術に触れる環境づくり	(文化振興事業) 歴史や文化に触れる機会を提供し、市民の文化向上並びに振興、促進を図る。

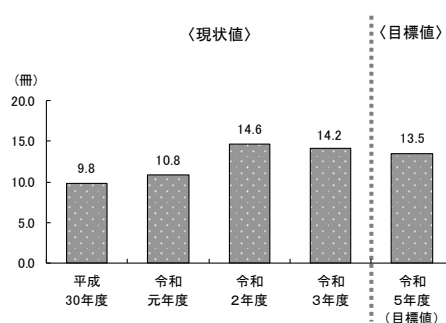
【データの推移等】

図 19 公民館などでの講座参加者数
(指標 H-1)



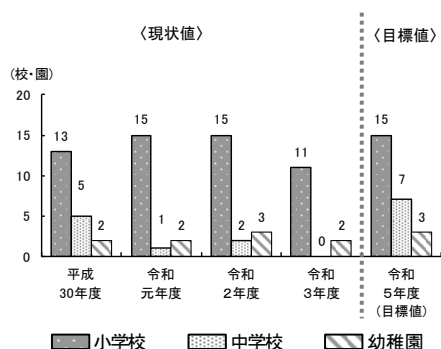
出典：公民館活動報告書

図 20 市民図書館における児童書の貸出冊数
(指標 H-2)



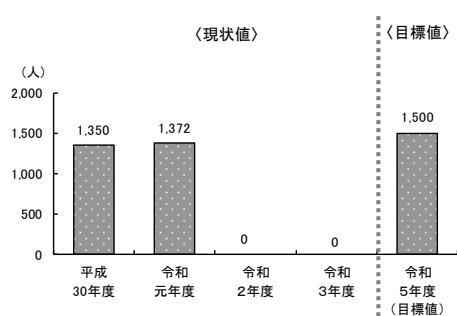
出典：市民図書館

図 21 市民図書館と連携を実施した
学校園数（指標 H-3）



出典：市民図書館

図 22 文化祭参加者数（指標 H-4）



出典：いきがい学習課

- ◎新型コロナウイルス感染症防止のため、前半の講座が中止となり、講座回数、参加人数を減らし開催。講習後、自宅でも取り組める内容（運動、手作り、ペン字、脳科学など）を取り入れました。令和2年度より少しずつ参加者が戻ってきています。
- ◎新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、図書館資料の団体貸出は、減少しましたが、感染症対策をしながら可能な範囲で団体貸出を行いました。
- ◎新型コロナウイルス感染症拡大防止のため文化祭については、令和3年度は事業を中止しました。

【取組みの成果】

生涯学習については、人との繋がりが希薄になる中で、外に出るきっかけとなるような学びの機会の提供を行った。講習後、自宅でも取り組める内容（運動、手作り、ペン字、脳科学など）を取り入れました。

市民図書館管理運営については、設計者による建築設計の説明やエピソードを聞きながら建物や館内を巡る見学会、屋上を活かした夜間の天体観測会などを実施し、多様な事業展開を行うことで幅広い年齢層へ図書館のPRをすることで図書館利用の充実につなげました。また、コロナ禍で配布できていなかった小学2年生と、小学1年生への読書通帳の配布を行い、児童への図書館利用環境も充実させるとともに、コロナ禍でも読書が楽しめるよう図書館休館中の宅配サービスを実施しました。また、4か月検診で絵本の配布、あかちゃんからのおはなし会や、えほんのゆりかごなど乳幼児向けのおはなし会を引き続き実施しました。また、新しく天美図書館を移転し、授乳室を設け、体重計を設置するなど、乳幼児にも配慮した図書館となりました。

【今後の対応案】

生涯学習については、5公民館を使って講座開催を予定していましたが、三密を避けるためまつばらテラス（輝）での活動が多くなりました。各地域にある5公民館での開催や夜間、休日の講座など感染防止に努めながら市民のニーズに応えるため、今後も講座開催を継続していきます。

市民図書館管理運営については、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、安心安全な読書環境を提供し、今後も積極的にPR活動を継続していきます。

市民図書館管理運営については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、乳幼児向け事業を実施していけるよう工夫します。また、ブックスタート事業については現状はえほんの配布のみにとどまっていますが、今後は、保健センターに司書が出向き、図書館や絵本の紹介が行えるよう取組みを継続していきます。

文化振興については、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、安全に事業を開催できるよう取組みを行います。

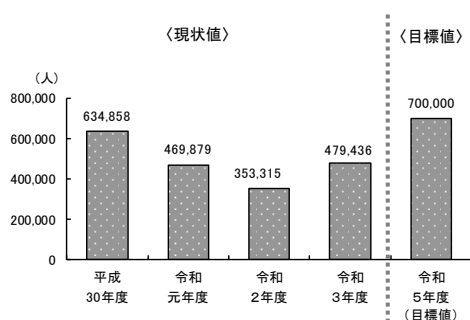
重点目標（２）市民のスポーツ文化の醸成

【主な取組み】

主な取組み	内容
スポーツに親しむ環境整備	(市民体育館管理事業) (市民道夢館管理事業) 指定管理者制度の導入により、市民ニーズに応じた幅広いプログラムの提供やトレーニング室の充実を図り、市民のスポーツ活動を支える施設運営を行う。
市民スポーツの推進	(市民スポーツ自主事業) 市民が生涯にわたってスポーツに親しめるように、体育協会との共催によるスポーツ大会・教室を提供し、スポーツ活動を通して、心身の健全育成を図る。
	(市民スポーツ助成事業) 市民がスポーツに親しみ、交流の場となるように、市民運動会とマラソン大会を開催し、気軽にスポーツができる機会の提供を図る。

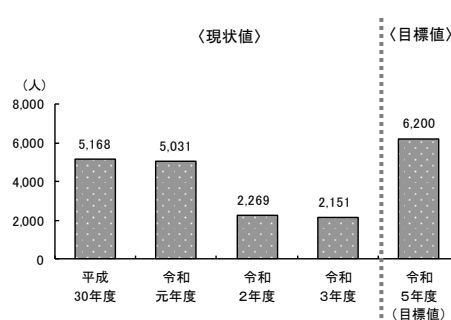
【データの推移等】

図 23 スポーツ施設利用者数（指標 I-1）



出典：いきがい学習課

図 24 スポーツ教室などの参加者数（指標 I-2）



出典：いきがい学習課

◎新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、施設の休館や時間短縮及び利用人数の制限を行っていますが、施設の利用者数は戻ってきています。

【取組みの成果】

市民体育館管理及び市民道夢館管理については、指定管理者制度の導入により、利用者のマナーの向上の喚起や多数の自主事業であるコース型教室拡充等、市民の多様なニーズに対応した運営を実施しました。

市民スポーツについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の大半が中止となりましたが、できる範囲でスポーツ大会及びスポーツチャレンジを実施したことにより、スポーツへの関心が高まり、地域の交流を深めることに寄与しました。また、小中学生を対象にリオデジャネイロオリンピック女子バスケットボール日本代表の大崎佑圭氏を講師に招き、体験教室を開催しました。

【今後の対応案】

コロナ禍でも、市民のニーズに合わせた企画運営に努め、子どもから高齢者まで、誰もが利用しやすいスポーツ施設を提供します。

市民の健康増進を図るため、コロナ禍でも感染症対策を徹底し、予防対策を講じて市民教室や市民大会を開催できるよう取組みを行います。

基本的な方針 3 文化財の保護と活用をととして、郷土への愛着と理解を深める

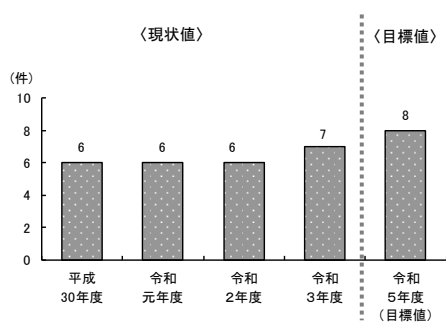
重点目標（1）歴史・文化の振興

【主な取組み】

主な取組み	内容
文化財の保存	(調査・保存事業) 地域の文化財を次世代に継承するため、調査を実施し、重要なものについては市指定文化財に指定し、その保存を図る。
文化財の普及啓発	(調査・保存事業) (文化振興事業) 地域の文化財の周知と愛護意識の高揚を図り、地域の歴史・文化等を理解し学習する機会を提供する。

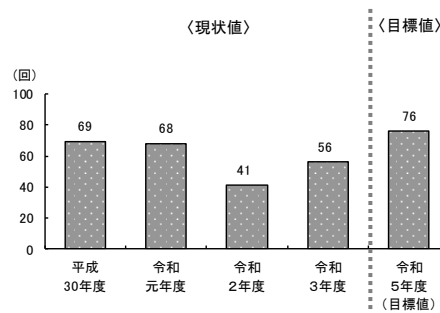
【データの推移等】

図 25 指定文化財指定数（指標 J-1）



出典：文化財課

図 26 歴史文化関連の講座などの実施回数（指標 J-2）



出典：文化財課

- ◎指定文化財指定数については、指定のための諮問会議を予定通り実施し令和4年度には指定が8件となる予定です。
- ◎歴史文化関連の講座などの実施回数については、感染拡大防止対策を取りつつ可能な限り講座を開始したことで、令和元年度をやや下回るものの一定回数実施することができました。
- ◎郷土資料館の入館者数については、新型コロナウイルス感染症の流行がやや落ち着いたため、入館者数は前年度比を上回る結果となりましたが、令和元年度の水準まで回復することはありませんでした。

【取組みの成果】

調査・保存については、天美我堂の善正寺で文化財総合調査を実施しました。また、来迎寺紙本著色融通念仏縁起絵巻を市指定有形文化財に指定し、有形文化財1件の市指定について松原市文化財保護審議会に諮りました。

文化振興については、文化財保護の普及啓発のため、市ホームページにおいて「まつばら文化財デジタルアーカイブ」として二次利用可能な形でデータ公開を開始しました。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止措置を図りながら、可能な範囲で展示や講座を実施しました。

【今後の対応案】

市内には顕在化していない文化財が埋もれているため、引き続き文化財総合調査を実施し、文化財の新たな発見に努め、市民への周知と指定及び保存措置を図ります。

今後、オンラインで公開を開始した文化財のデータについて、学校教育との連携など具体的な活用方法を検討します。